

編集後記

本号は、症例ばかり集められた特集号である。食道から大腸まで、早期胃癌研究会に呈示された4例を含む14編がのせられている。

どの症例をみても珍しいものばかりで、経験したことのないような症例のほうが多い。

元来、主題や研究は比較的日常生活経験する疾患の中で未解決の問題に取り組んでいるものが多いが、ときには勇み足の推論が、後になって当を得ない結論であったり、誇張されすぎている面がないでもない。それに反し、症例報告はうそがない。ことに、ここに掲載されている症例は、厳選されるためか、X線や内視鏡写真もよく、その他の検査も十分なされている。学会の地方会では症例報告が多く、よい勉強になるのだが、本号の症例をじっくりみるようなわけにはいかない。

それだけ、味わいのある内容があると思う。日頃、研究会で指名され、やられることが多いが、いつも症例集をみて勉強していなければならぬと痛感するし、また読めば読むほど、診断学のむずかしさ、深さが感ぜられる。

＜西沢 護＞

＜編集＞ 早期胃癌研究会